

シニアのためのパソコン&スマホ広場(その 155)

「BitLocker」(デバイスの暗号化)の“無効化”設定について

Windows11に搭載された「**BitLocker**」機能について、「パソコン&スマホ広場(その144)」で紹介しましたが、パソコンを「電源」ボタンの長押しで“強制終了”させたり、パソコンの部品交換修理をした際に、「**BitLocker**」の回復キー入力を求める画面が表示されることがあります。

「**BitLocker**」機能の良し悪しは、パソコンの利用者によって異なるので、「パソコン&スマホ広場(その144)」に記載のメリットとデメリットをご理解のうえ、「**BitLocker**」機能を“有効”にして使用するのであれば、「回復キー(数字48桁)」を調べて保存して下さい。

「**BitLocker**」は、パソコンの紛失や盗難に備えて、パソコン内のデータを暗号化することでセキュリティを強化する機能ですが、個人使用のパソコンで、盗難や紛失するリスクが低いと判断された場合、私見ですが「**BitLocker**」機能のメリットよりデメリットの方が多いので、「無効」にしておく方がよいと思います。



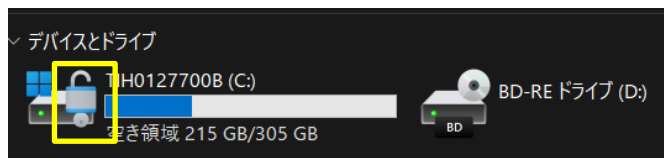
1. 「BitLocker」が「有効」／「無効」の確認

パソコン購入時に、“マイクロソフトアカウント”でログインして、「Microsoft Office」のインストール～ライセンス証を行います。それ以降「マイクロソフトアカウント」で“ログイン”していると、パソコンメーカーによって「**BitLocker**」機能が初期設定で「有効」になっていることがあります。

そのため、以下の手順で「**BitLocker**」機能の状態を確認してください。

<確認手順>

- ① デスクトップに「PC」アイコンが有る場合、そのアイコンをダブルクリックする。
デスクトップに「PC」アイコンが無いときは、「エクスプローラ」を起動して、画面の左側に表示されている[PC]をクリックする。
- ② 下図のような「デバイスとドライブ」画面が表示されたら、C:ドライブに“シリンダー錠”の形をしたマークが付いているか否かを確認する。
鍵のマークが付いていると、「**BitLocker**」機能が「有効」になっており、付いていなければ「無効」を意味しています。
下図は、C:ドライブに鍵マークが付いているので「**BitLocker**」機能が「有効」になっている例です。



“シリンダー錠”のマークがついていなければ、「**BitLocker**」機能が「無効」になっています。

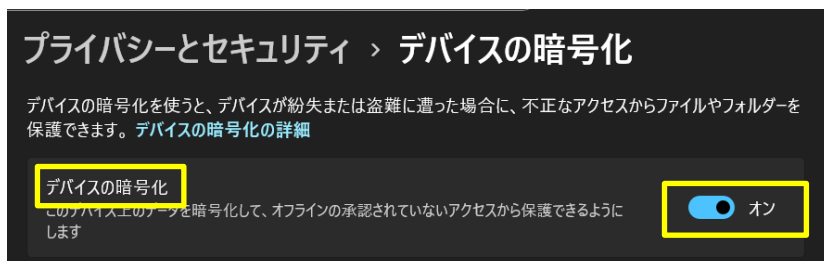
「パソコン&スマホ広場(その144)」に、「**BitLocker**」機能のメリットとデメリットを記していますが、パソコンを個人で使用するので、パソコンが盗難にあたり紛失するリスクは低いと判断した場合、「**BitLocker**」機能を無効」にしておいたほうが良いと思います。(私見)

2. 「BitLocker」機能を無効化する方法

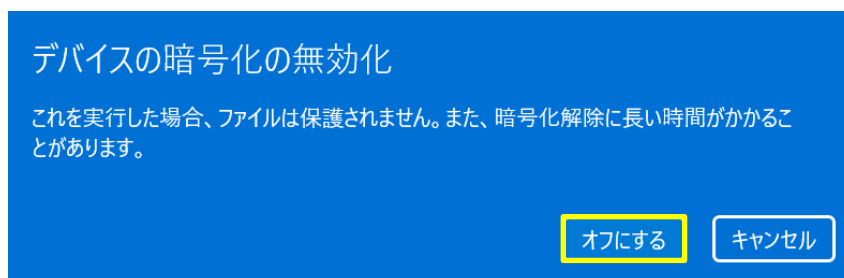
「パソコン&スマホ広場(その144)」にも、「**BitLocker**」機能を無効化する方法を記しましたが、その後、手順が変更になっているようなので再掲します。

<手順>

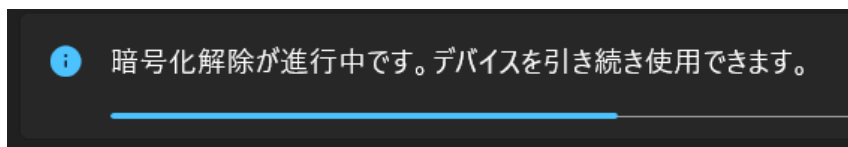
- ① 「スタート」⇒「設定」をクリックする。
- ② 「プライバシーとセキュリティ」を選択し、画面左側にある「プライバシーとセキュリティ」をクリックする。
- ③ 「デバイスの暗号化」を選択し、「セキュリティ」欄にある「デバイスの暗号化」をクリックする。
- ④ 「デバイスの暗号化」のスイッチを「オフ」に切り替える。



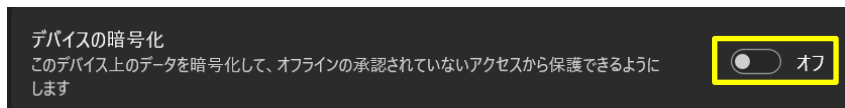
- ⑤ 暗号化を解除する下図の画面が表示されるので、「オフにする」をクリックする。



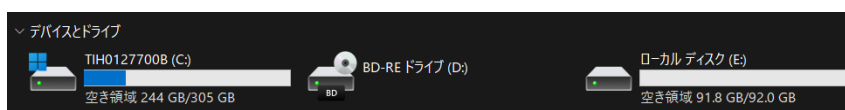
- ⑥ 下図の画面が開くので終わるまで待つ。



- ⑦ デバイスの無効化スイッチが「オフ」になったことを確認する。



- ⑧ PCを開き、C:ドライブに”シリンダー錠”マークが消えていることを確認する。



以上
田辺・西牟婁地区協議会 森田那華雄